

## 干潟観察会

- 【日時】5月19日(月)10:00~17:00
- 【天候】小雨決行:小雨が降りました
- 【調査場所】
  - 川崎側(右岸)3箇所(大師橋より下流)
  - 羽田側(左岸)2箇所(大師橋より上流)
- 【調査内容】
  - 多様性調査(種類の多さを競う)
  - 定量調査(量も調べてみる)

どんよりと小雨もばらつく干潟かな

## 底性生物多様性調査

### 30分で干潟に棲む生き物を探す

- 30分で何種類の生物を発見できるのか？
- その場所の特徴をそこから知るには？

見つかる種類の数

参加者数

一人当たりの種類数

人数が増えるとどんどん見つかる種類も増える。見つかりにくい種がいっぱいあるところ

人数がふえても発見される種数はあまり変わらない。同じような種類ばかりが生息するところ

## いろいろな場所を手分けして

- 干潟のいろんな場所で生き物を探してみましょう。



ヨシの中



石の下



泥の中



アナジャコを見て これがまあ ついの住処か 泥5尺  
アナジャコ応えて これがまあ 君の住処か 泥もなし

## ベントス定量調査

土の中にどんな生き物がどれだけいたか？

- 干潟に直径10cmの杭を30cm差し込み、採取した土のなかの生物を調べる調査。



掘って



探って



調べる

ベントスの良い子はみんな泥の中

## 空から見た調査場所



ベントスは 千の風になっても見えません

## 川崎側 地点①、②、③



開けた海のような場所です。



土手から降りて飛び跳ねたくなるような場所です。



何が棲んでいるか期待できる場所です。

君知るや、大師も成る、千海なる

## 羽田側 地点④、⑤



大小の穴がいっぱい。でも泥にはまるので注意



川の広場のとなり。海はぜんぜん感じませんが

穴見れば ヤマトオサガニ テレ隠れ

## 参加:83名(Staff27名)



今日来るは 雨にも負けない 干潟好き

## 確認できた生物たち



ゴカイ



アナジャコ

つりの  
餌で親  
しまれ  
ている  
そうです



ヤマトオサガニ



ホンビノスガイ

とつても  
おいしい  
そうです

見て楽し 食べておいしい 干潟かな

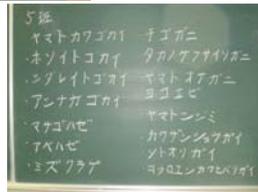
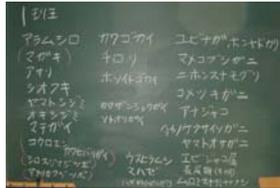
## 室内で同定・定量・整理を



アラムシロ チロリと見えた マメコブシ

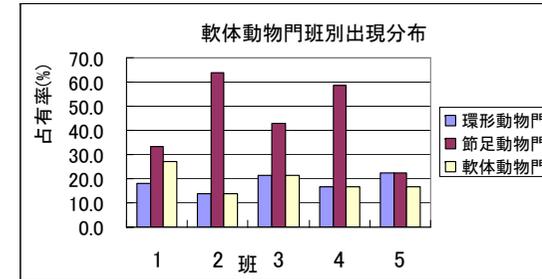
## 海に近いほど多様な種がいることが分かりました。

- 1班28種
- 2班20種
- 3班15種
- 4班9種
- 5班8種
- (種観察のベントスのみ)



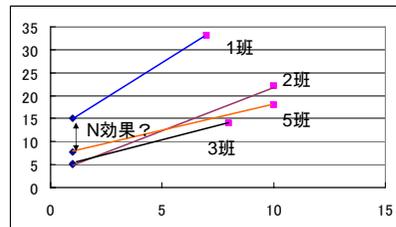
## 地点別出現種の特徴

- 1、5は各種満遍なく、2、3、4は節足動物が多く発見された。
- 場の特徴か？もしくは参加者の特性か？例えば、2班にはカニ取り名人がいたとか？



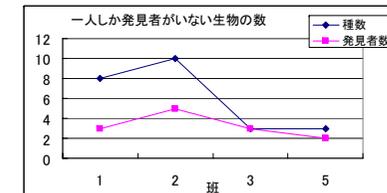
## 地点別種数出現特性

- 1・2班の傾きが高い。
- (1班は地盤のやや高い砂地の干潟が広く分布、下流側に位置する等)



## 各班の特徴

- 一人だけが発見者だった生物の種類数と、それを見つけた人の数を示す。
- 1班は多くの種類を少ない人が発見している(生物探しのスーパースター型)
- 2班は多くの種類を多くの人で発見している(手分け分担型)
- 3班は、3種類を3人が発見。2班に近いが種類が少ない。頑張れ3班型
- 5班は2人で3種類、特徴を見分けるのは困難です。



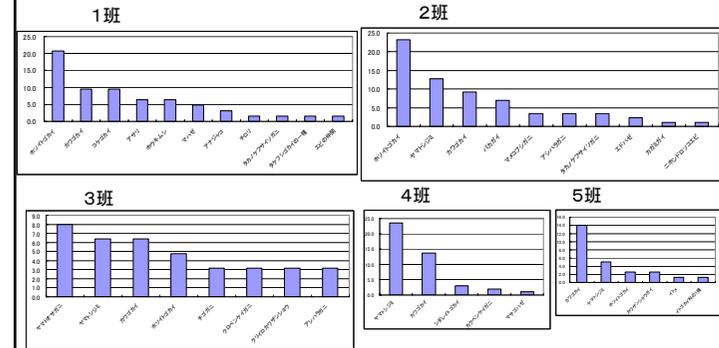
4班が個人データがなく、あまり分析できないのは残念でした。

## 1班の謎??

- もしかしたら、環の中央で大活躍したN効果?かも知れない。



## 定量調査(筒堀調査)



## 班別出現数ランク

- カワゴカイ、ホソイトゴカイはすべて出現
- ヤマトシジミは1を除き出現
- その他の種は場所によってずいぶん違いがある。

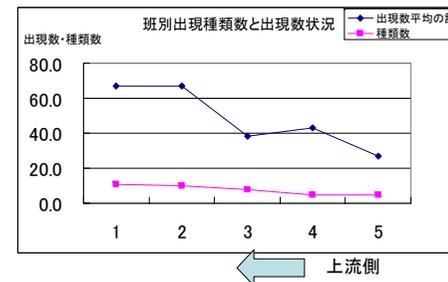
第1班		第2班		第3班	
ホソイトゴカイ	20.7	ホソイトゴカイ	23.2	ヤマトオサガニ	8.0
カワゴカイ	9.6	ヤマトシジミ	12.7	ヤマトシジミ	6.4
コケゴカイ	8.6	カワゴカイ	9.3	カワゴカイ	6.4
アザリ	6.4	バカガイ	6.9	ホソイトゴカイ	4.8
ホウキムシ	6.4	マメコブシガニ	3.5	オゴカイ	3.2
マハゼ	4.8	アシハラガニ	3.5	クロベンケイガニ	3.2
アナジャコ	3.2	タカノケサイソウガニ	3.5	クリイロカワサンショウ	3.2
チロリ	1.6	エドハゼ	2.3	アシハラガニ	3.2
タカノケサイソウガニ	1.6	カガミガイ	1.2		
タケフソガイの一種	1.6	ニホンドロソコエビ	1.2		
エビの仲間	1.6				

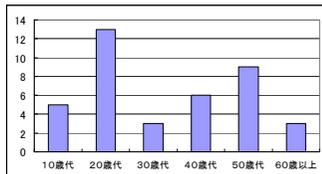
第4班		第5班	
ヤマトシジミ	23.5	カワゴカイ	14.0
カワゴカイ	13.7	ヤマトシジミ	5.1
シダレイトゴカイ	2.9	ホソイトゴカイ	2.5
カクベンケイガニ	2.0	カワサンショウガイ	2.5
マサコハゼ	1.0	イトメ	1.3
		イトゴカイ科の1種	1.3

## 定量調査のまとめ

- 下流ほど、種類数、出現数が増加している。



## 参加者アンケート



日常ではめったに体験できないことなので、今後も観察会を継続してほしいです。(複数記入あり)

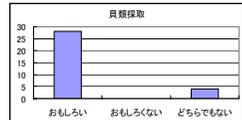
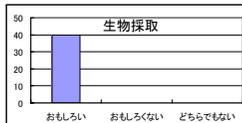
海の豊かさを口でも感じたい。

自然の風、泥、海水にふれて自分が生かされている事を感じました。

悪臭もなく「しじみ」が沢山いました。「自然に帰る」時を持って良かった！

初めての体験で、大変興味深かった。この様に大勢で調べる楽しさを知りました。

来てみての後の私に比べれば 昔は干潟を知らなかりけり



## まとめと今後の展望

- 各干潟はその特徴が一樣ではなく、様々な場に様々な生物がいるなど、非常に興味深い結果が得られた。
- 下流側で生物の種数や個体数が多い可能性があることが分かった。
- 干潟の生き物に直接触れ、実感し、干潟の多様性や生き物の棲める環境の大切を理解していただく機会になった。
- 今回の結果を協力していただいた皆さんに伝えていきたい。
- 場所変化があるので、時間変化もあることが想定されるため、継続が必要。
- 参加者の特性を把握する調査も実施したい。
- 謝辞: 分析と解析は、その多くを風呂田教授とその研究室によるものです。

## ご静聴ありがとうございました。



穴を見ても分からぬ俺の目節穴か！ 節穴を直してあげます観察会  
海と川出会う干潟に夏は来ぬ